



警告のニューズレター「角笛」

発行日:2016年4月発行(第72号)

発行:警告の角笛出版

価格:フリーペーパー

角笛 HP:<http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/>

【目次】

◎巻頭メッセージ:「聖書の暗号は、アメリカこそ獣の国であることを語る」 エレミヤ

◎証:「日曜日の礼拝で教えていただいたこと」 E3

◎お知らせコーナー:「本の紹介」「日曜礼拝&HPのご案内」

[巻頭メッセージ]

「聖書の暗号は、アメリカこそ獣の国であることを語る」

by エレミヤ

<聖書の暗号は神が聖書の中に組み込まれた>

今回は、「聖書の暗号は、アメリカこそ獣の国であることを語る」として、このことを見ていきたい、と思います。

聖書に暗号現象が存在することは以前、マイケル・ドロズニン著、「聖書の暗号」の本を通して有名になりました。この現象がたしかに存在することはアメリカの数学専門誌に認められ、その論文が掲載されたほどです。ですから、聖書に暗号が存在するという、このことは、決してきわものでも、インチキ話でもないのです。さて、聖書に暗号が含まれているとして、誰がその暗号を組み込まれたのか?その答えは、当然ながら、聖書を書かれた神ご自身ということになります。なぜなら、聖書自身がこの書は全て神の靈感によるものであることを語るからです。

[聖書箇所]Ⅱテモテへの手紙 3:16

3:16 聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。

<アメリカという語を聖書で検索するとダニエル書、像の礼拝の箇所に出現する>

ステファン兄弟がアメリカをキーワードにして聖書の暗号を検索し、HPに掲載しています。そこから 転載させていただきます。それによると、アメリカというヘブル語の最少スキップ17の暗号は、以下のダニエル書の箇所に出現したとのことです。

[聖書箇所]ダニエル書 3:3-5

3:3 そこで太守、長官、総督、参議官、財務官、司法官、保安官、および諸州のすべての高官は、ネブカデネザル王が立てた像の奉献式に集まり、ネブカデネザル王が立てた像の前に立った。

3:4 伝令官は大声で叫んだ。「諸民、諸国、諸国語の者たちよ。あなたがたにこう命じられている。

3:5 あなたがたが角笛、二管の笛、立琴、三角琴、ハープ、風笛、および、もろもろの楽器の音を聞くときは、ひれ伏して、ネブカデネザル王が立てた金の像を拝め。

この箇所は他でもない、ダニエルの3人の

聖書の暗号は、アメリカこそ獣の国であることを語る エレミヤ

友が、バビロン王の建てた像を拝まないゆえ、迫害に会う箇所です。そして、これは艱難時代の予表と思われます。なぜなら、黙示録には艱難時代にも同じく、獣の像を拝まない者が殺される日が来ることが預言されているからです。

すなわち、暗号検索すると「アメリカ」ということばが、まさに艱難時代を預言したかのような聖書箇所にも最小スキップで出現するのです。これを通して、アメリカこそが艱難時代の立役者、推進者であることを暗号は語っている、暗示している、と理解することが正しいと思われま

<像を拝むことの意味合い>

このダニエル書の箇所に基づき、獣の像を拝むことの意味合いを考えてみましょう。ダニエル書のテキストに沿って見ていきます。

[聖書箇所]ダニエル書 3:3

3:3 そこで太守、長官、総督、参議官、財務官、司法官、保安官、および諸州のすべての高官は、ネブカデネザル王が立てた像の奉献式に集まり、ネブカデネザルが立てた像の前に立った。

この時、バビロン王は当時の世界帝国である大バビロンを打ち立て、そして、当時の世界を支配していました。このバビロンは昔の国であるだけではなく、それは終末の日に再現すると思われま

[聖書箇所]ヨハネの黙示録 17:4,5

17:4 この女は紫と緋の衣を着ていて、金と宝石と真珠とで身を飾り、憎むべきものや自分の不品行の汚れでいっぱいになった金の杯を手に持っていた。

17:5 その額には、意味の秘められた名が書かれていた。すなわち、「すべての淫婦と地の憎むべきものとの母、大バビロン。」という名であった。

です。終末の日にこのバビロンにおいて正しい聖徒への迫害が再現される、と思っ

「そこで太守、長官、総督、参議官、財務官、司法官、保安官、および諸州のすべての高官は、ネブカデネザル王が立てた像の奉献式に集まり」



Verse	Chapter	Book	Letter	Skip	
3	3	Daniel	דניאל	ה	17
3	3	Daniel	דניאל	ק	17
3	3	Daniel	דניאל	י	17
4	3	Daniel	דניאל	ר	17
4	3	Daniel	דניאל	מ	17
5	3	Daniel	דניאל	א	17

アメリカということばは、最小スキップ17で、ダニエル書3章3~5節の間に出現した。

この日、バビロン王は全世界を支配するその権力の下で、全世界から、「太守、長官、総督、参議官、財務官、司法官、保安官、および諸州のすべての高官」を集めました。

同じように、終末の獣帝国アメリカもその日、全世界を支配した後、全世界から代表を集め、命令を下すようになるでしょう。何の命令を下すのか？それは、「**像の奉献式**」と書かれていますように、像を礼拝することを全世界の人々、特にクリスチャンに対して、強制するためにです。

聖書の暗号は、アメリカこそ獣の国であることを語る エレミヤ

<像とは人をあらわすたとえ>

さて、像の意味合いは何でしょうか？考えてみましょう。この像を拝することは、黙示録にも記載されています。以下の通りです。

[聖書箇所]ヨハネの黙示録 13:14,15

13:14 また、あの獣の前で行なうことを許されたしるしをもって地上に住む人々を惑わし、剣の傷を受けながらもなお生き返ったあの獣の像(image)を造るように、地上に住む人々に命じた。

13:15 それから、その獣の像(image)に息を吹き込んで、獣の像がもの言うことさえもできるようにし、また、その獣の像(image)を拝まない者をみな殺させた。

この像 (image) という表現はたとえであり、この記述が表すことは、仏像や銅像を拝むことというより、実際には、人間を拝むこと、具体的には、反キリストという人物を拝することを表現するものと思われます。像と訳される“image”ということばは、以下でも使われています。

[聖書箇所]コロサイ人への手紙 1:15

1:15 御子は、見えない神のかたち (image) であり、造られたすべてのものより先に生まれた方です。

この箇所ではキリストが見えない神のかたち (image) であることが語られています。神は目に見えない方なのですが、しかし目に見える人となられたイエス・キリストを通して、我々は具体的に神の“image”を得ることが出来るのです。

同じ意味合いで、獣の像 (image) は、獣を“image”したものなのです。反キリストこそ、この獣の“image”であり、彼は人間ではあるけれども、しかし獣を体現したような存在となるのです。そして世の終わりに、サタンは人となられたイエス・キリストに対抗します。自分の“image”である反キリストという人物を自分の代表であるかのように、建

てるのです。

<像の奉献式>

この日、バビロン王は全世界に呼び掛け、多くの高官を招いて大々的に像の奉献式を行いました。それは、終末において反キリストを全世界に対してお披露目を行い、公表する日の預言だという風に理解出来ます。

ですから、終末の日の反キリストも決してこそこそと隠れて登場する、知らないうちに登場する、ということはないのでしょうか。逆にその日、全世界を支配する獣の国アメリカの威光をかけて、この人物は建てられることとなります。結果、反キリストは、全世界で誰一人知らない者のない有名な人物となるのでしょうか。

ב	נ	י	ק	ה	ד	א	ל	מ	צ	נ	כ	ת	ל	ח
מ	ת	י	ד	ב	א	ל	כ	צ	ר	מ	ל	נ	ד	ו
נ	ש	י	א	ח	ש	ד	ר	פ	נ	י	א	ס	ג	נ
א	י	א	ג	פ	ח	ת	א	ד	ר	ג	ז	ר	י	א
ד	ב	ר	י	א	ד	ת	ב	ר	י	א	ת	פ	ת	י
כ	ל	ש	ל	נ	י	ד	י	נ	ת	א	ל	ח	נ	כ
נ	ד	ו	כ	ד	י	ק	י	ה	י	ס	י	נ	ב	ו
צ	ר	מ	ל	כ	צ	ר	מ	ל	כ	צ	ר	מ	ל	כ
ל	מ	ל	כ	צ	ר	מ	ל	כ	צ	ר	מ	ל	כ	צ
ו	כ	ר	ז	א	ק	ר	ב	ח	י	ל	ל	כ	ו	י
א	מ	ר	י	ע	י	א	א	מ	י	א	ו	ל	ש	ל
נ	י	א	ב	ע	ד	י	ת	ש	מ	ע	ו	ר	ק	י
ל	ק	ר	נ	א	מ	ש	ר	ק	י	ת	א	ק	י	ת
ו	ס	כ	ב	כ	א	פ	ס	נ	ת	ר	י	י	ס	ו
נ	י	ה	ו	כ	ל	ז	נ	י	ד	ר	א	ת	פ	ל
י	ו	ת	ס	ג	ד	ו	י	ו	ל	צ	ל	ס	ד	ב
י	ה	ק	י	ס	נ	ב	ו	כ	ד	נ	צ	ל	מ	ל
ו	מ	י	ל	א	י	פ	ל	ו	י	ס	ג	ד	ב	ה

ヘブル語でアメリカということばを検索した結果(最小スキップ17)

<反キリストはキリストの座を占める>

この反キリストに関して驚くべきことがあります。彼は、キリストを教会の神の座から引きずり下ろし、代わりに自分がその座に着くのです。テサロニケ人への手紙は、その日を預言して以下のように述べます。

聖書の暗号は、アメリカこそ獣の国であることを語る エレミヤ

〔聖書箇所〕Ⅱテサロニケ人への手紙 2:3,4

2:3 だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現われなければ、主の日は来ないからです。

2:4 彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します。

この箇所が述べるのは恐るべき日です。まず、背教が起こり、そして、もう教会がキリストを神と崇めたり、救い主であると受け入れられない日が来るのです。背教というギリシャ語には、「離縁する」というニュアンスがあります。すなわち、今まで夫であるキリストと婚姻関係にあった女、教会が、キリストとの関係を解消します。そして、他の男、すなわち、反キリストとの婚姻関係を持つようになるのです。これが背教なのです。

<神の宮の中に座を設け>

神の宮とは、エルサレムの第3神殿のことなどではありません。そうではなく、今の教会時代における神の宮とは、教会のことです。以下のように書かれています。

〔聖書箇所〕エペソ人への手紙 2:20,21

2:20 あなたがたは使徒と預言者という土台の上に建てられており、キリスト・イエスご自身がその礎石です。

2:21 この方にあつて、組み合わされた建物の全体が成長し、主にある聖なる宮となるのであり、

です。テサロニケ人への手紙が言う反キリストが、「神の宮の中に座をもうけ」とは、こういう意味合いなのです。すなわち、反キリストが教会の中に入り込み、あろうことかキリストを神の座から追い出し、自分がその座を占めるのです。そして「イエス・キリストは偽り者だ、自分こそ教会の神である。」と宣言するのです。そうです。何とも驚くべき冒涇の時代に入るのです。この日を指して

主は、以下のように言われました。

〔聖書箇所〕マタイの福音書 24:15

24:15 それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす憎むべき者』が、聖なる所に立つのを見たならば、(読者はよく読み取るように。)

聖なる所とはどこか? 「第3神殿だ」などと言う人は、よく読み取っていない読者です。答えを言うなら、教会以上に聖なる場所はなく、そして、その教会の神の座以上に聖なる所はないのです。その教会の神の座、キリストの座に、『荒らす憎むべき者』すなわち、反キリストは立つようになるのです。

〔聖書箇所〕ダニエル書 3:4,5

3:4 伝令官は大声で叫んだ。「諸民、諸国、諸国語の者たちよ。あなたがたにこう命じられている。3:5 あなたがたが角笛、二管の笛、立琴、三角琴、ハープ、風笛、および、もろもろの楽器の音を聞くときは、ひれ伏して、ネブカデネザル王が立てた金の像を拝め。

ここでは、像への礼拝と共に、楽器に関して記されていることが分かります。なぜ、楽器に関して語られているのでしょうか? 楽器は教会の礼拝に用いられるものであり、神への賛美に用いられるものです。ですので、ここでの記述を通して、教会の礼拝の中で像、すなわち、反キリストに対して礼拝を行うよう求められる日が来ることが預言されていることが分かるのです。

<金の像>

金の像、ということばにも隠れた意味合いがあります。金は聖書では信仰を表します。以下のことばを見てください。

〔聖書箇所〕Ⅰペテロの手紙 1:7

1:7 信仰の試練は、火を通して精練されてもなお朽ちて行く金よりも尊いのであって、イエス・キリストの現われのときに称赞と光栄と栄誉に至るもの

聖書の暗号は、アメリカこそ獣の国であることを語る エレミヤ

であることがわかります。

ですので、金の像という表現を通して、この反キリストは、すばらしい神の信仰の器、奇跡やしるしを行う器、として尊敬され、崇められる人物となることが分かるのです。

〔聖書箇所〕ダニエル書 3:6

3:6 ひれ伏して拝まない者はだれでも、ただちに火の燃える炉の中に投げ込まれる。

このバビロン王の像を拝まない者は殺されることが書かれています。これも終末の日に再現するでしょう。黙示録でも獣の像、すなわち、反キリストを拝まない者には、死の罰が下されることが描かれています。以下の通りです。

〔聖書箇所〕ヨハネの黙示録 13:15

3:15 それから、その獣の像に息を吹き込んで、獣の像がもの言うことさえもできるようにし、また、その獣の像を拝まない者をみな殺させた。

<私たちは背教の教会を出るべきである>

このような事態に至らないため、主は背教の教会を出るべく、以下のように勧めています。

〔聖書箇所〕マタイの福音書 24:15-20

24:15 それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす憎むべき者』が、聖なる所に立つのを見たならば、(読者はよく読み取るように。)

24:16 そのときは、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。

24:17 屋上にいる者は家の中の物を持ち出そうと下に降りてはいけません。

24:18 畑にいる者は着物を取りに戻ってはいけません。

24:19 だが、その日、悲惨なのは身重の女と乳飲み子を持つ女です。

24:20 ただ、あなたがたの逃げるのが、冬や安息日にならぬよう祈りなさい。

ここで主は、屋上にいる者は、家の中に戻らないよう語られています。畑にいる者は着物を取りに戻らないよう語られています。これらはたとえや謎を用いた表現です。家は教会であり、背教の教会、すなわち反キリストを礼拝するようになった教会に戻るべきではないことが語られているのです。そして屋上、すなわち仮庵にとどまること、地下教会にとどまること、ここで勧められているのです。

<アメリカは反キリスト礼拝の日を目指している>

上述のように、聖書の暗号は明らかにアメリカこそ、獣の国であることを述べるのですが、それでは、今のアメリカの現状はどのようなのでしょうか？今のアメリカの現状を見るなら、たしかにこの国は獣の国となりつつあり、背教に向かい、さらに反キリスト礼拝を目指していることが分かります。

今アメリカでは、キリストの名があらゆるところで排除されつつあります。クリスマスということばには、キリストという名前が入っているという理由で、このことばさえ使われなくなりつつあります。キリストの福音を伝えるべく路傍伝道をする人、トラクトを配る人などが逮捕されつつあるのです。

このようなことの行き着く日は、どんな日なのでしょう？それはいずれ、教会がキリストを追い出し、反キリストを受け入れる日なのでしょう。結論として、聖書の終末に関する預言は、アメリカこそ、その終末の獣の国であることを預言します。さらに聖書の暗号もそれを語るのです。この国を警戒しましょう。

日曜日の礼拝で教えていただいたこと E3

今回は、一昨年（2014年）12月に、日曜日の礼拝で、「教師」に関して、エレミヤ牧師がメッセージされていたことを、紹介させていただきたいと思います。聖書箇所は、ヤコブの手紙です。以下、エレミヤ牧師によるメッセージです。

3:1 私の兄弟たち。多くの者が教師になってはいけません。ご承知のように、私たち教師は、格別きびしいさばきを受けるのです。

このことに耳を傾け、心に留めたいと思います。「**私たち教師は、格別きびしいさばきを受けるのです。**」とありますように、教師は危険な仕事です。みことばの奉仕は、正しく行なうなら祝福を受けますが、しかし、そうではない場合に、さばきを受けてしまうからです。主が律法学者やパリサイ人に「ゲヘナの子」と言われました。しかし主は無意味にそのようなことを言われたわけではなく、パリサイ人の奉仕はまさにそうだったからです。公義や神さまへの愛や憐れみをなおざりにして、そしてさいごまでそのまま続けていたので滅んだのです。また、牧師は攻撃が強い、ということが言えます。そんな風に、たしかに教師へのさばきは厳しいのですが・・・しかし神が本当に召したのなら、その働きに着くことに御心がありますし、実際にそうするなら祝福を受けます。

3:2 私たちはみな、多くの点で失敗をするものです。もし、ことばで失敗をしない人がいたら、その人は、からだ全体もりっぱに制御できる完全な人です。

「**失敗**」ということばは、ギリシャ語の原語では、「つまずかせる」と書かれています。つまり、牧師や教師が信徒やクリスチャンの歩みを大いにつまずかせることがある、ということ言われているのです。「**ことばで失敗をしない**」とありますように、これが牧師や教師のもっとも大きな部分、一番の問題はことばです。牧師や教師を通してつまずくのはことばを通してのことです。悪口もそうですし、そして聖書のみことばに関してのことを言われています。教理や教えによってつまずかせたり、場合によっては自分に倍まさるゲヘナの子にしてしまうことがあります。ですので、もし、教師を目指すというときに、ことばで失敗をしないならうまくいきます。「**からだ**」とは、キリストの御体なる教会のことで、「**からだ全体もりっぱに制御できる**」とは、教会全体を歩むべき方向へ導ける、ということ言われています。つまり、教理や教えについてヤコブ書は重要視しています。

3:3 馬を御するために、くつわをその口にかけて、馬のからだ全体を引き回すことができます。

「**馬**」は、教会のことを、そして、「**くつわ**」は、教会をリードする牧師のことを言われています。つまり、教師によって教会全体は引っ張られていく、ということです。

3:4 また、船を見なさい。あのように大きな物が、強い風に押

されているときでも、ごく小さなかじによって、かじを取る人の思いどおりの所へ持って行かれるのです。

「**船**」は、教会のことを、「**かじ**」は、教師のことを指すたとえです。どんなに大きな教会でも、教師によって方向が変わっていく、ということです。つまり、教師がどうなのか？教師によって教会に影響を与える、ということ言われています。

3:5 同様に、舌も小さな器官ですが、大きなことを言って誇るのです。ご覧なさい。あのように小さい火があのような大きい森を燃やします。

「**舌**」も、教師を指すたとえです。ここで、教師の災いについて言われています。「**誇る**」とは、教師の誇りを言ったり、行き過ぎてしまう、ということ言われています。

3:6 舌は火であり、不義の世界です。舌は私たちの器官の一つですが、からだ全体を汚し、人生の車輪を焼き、そしてゲヘナの火によって焼かれます。

「**からだ全体**」とは、教会のことです。ここでは、教師によってゲヘナの火で焼かれて滅びに入っていく、ということ言われているのです。この箇所「教師」に言われている注意点について少し見ていきたいと思います。ひとつは、表の意味合いとして、ことばは気を付けなければいけない、ということです。もうひとつは、教理を正しく語ることです。そして、ここでは、みことばの教理のことと、また、霊的な事柄に関して述べられています。メッセージを聞いている人に、霊的な影響を与える、ということ言われているのです。つまり、メッセンジャーは霊的なことをも下すのです。私たちが話しているときに霊的なことが出てくる、下ってくる、ということ言われています。そういう意味合いで、日々の歩みが大いに関係してくるのです。歩みをきよくするつもりがないなら、この奉仕はしないほうが良い、ということが言えます。なぜなら、厳しいさばきを受けてしまうからです。つまり、教理だけではなく、霊的な事柄も大いに影響してしまうのです。

3:7 どのような種類の獣も鳥も、はうものも海の生き物も、人類によって制せられるし、すでに制せられています。

3:8 しかし、舌を制御することは、だれにもできません。それは少しもじつとしていない悪であり、死の毒に満ちています。

教会の中で、教師や牧師は制せられない、ということ言われています。

3:9 私たちは、舌をもって、主であり父である方をほめたたえ、同じ舌をもって、神にかたどって造られた人をのろいます。

3:10 賛美とのろいが同じ口から出て来るのです。私の兄弟たち。このようなことは、あつてはなりません。

日曜日の礼拝で教えていただいたこと E3

正しい歩みをしないときに、いくら正しく語っていても、呪いの霊が出てしまう、ということ言われています。「**賛美とのろいと同じ口から出て来る**」とありますように、一人の器（牧師や教師）から賛美が出てくるので、めぐみばかりだと思ってしまうかも知れません。しかし現実には教師を通して呪いも来る、ということは正しくとらえておきたいと思えます。ゆえにメッセージを吟味することは大事なことです。全面的に受け入れてしまうのは危険だと言えます。同じ教師を通して祝福も来ますが、呪いも来るからです。

3:11 泉が甘い水と苦い水を同じ穴からわき上がらせるというようなことがあるでしょうか。

3:12 私の兄弟たち。いちじくの木がオリーブの実をならせたり、ぶどうの木がいちじくの実をならせたりするようなことは、できることでしょうか。塩水が甘い水を出すこともできないことです。

ここでは、「水」についてのことが書かれています。これも教師に関連することです。「水」は、霊的な事柄です。そして、「甘い水」は聖霊のことを、「苦い水」とは、悪霊のことを言われています。すなわち、同じ教師の口から、「甘い水」「苦い水」の両方が出る、ということ語られています。あつてはならないのですが・・・しかし、そういうことがある、ということには理解したいと思います。霊を下している本人は分かりません。ゆえに受ける霊については気を付けたいと思えます。霊はきちんと見分けたいと思えます。

3:13 あなたがたのうちで、知恵のある、賢い人はだれでしょうか。その人は、その知恵にふさわしい柔和な行ないを、良い生き方によって示しなさい。

もし、私たちが神の知恵や教えが与えられて人に語るように示されたときに、どのようにそれをあらわしていくか？について言われています。そして、柔和な生き方、行いによって語っていききたいと思います。また、色々なことを柔和に行っていきたいと思えます。真理や正しい啓示をどういう風に提示するか？によって変わってくるからです。もし、柔和に行っていくなら神に用いられていきます。

3:14 しかし、もしあなたがたの心の中に、苦いねたみと敵対心があるならば、誇ってはいけません。真理に逆らって偽ることになります。

このことも教師や牧師への教えです。教師の中でどこかに誇りのようなものがあります。しかも、それだけではなく、教師の危険性のひとつとして、真理に逆らって偽るようになる、ということも言われています。つまり、ここでも教師への注意について言われています。

3:15 そのような知恵は、上から来たものではなく、地に属し、肉に属し、悪霊に属するものです。

3:16 ねたみや敵対心のあるところには、秩序の乱れや、あら

ゆる邪悪な行ないがあるからです。

これも皆、教師について言われています。15節で言われているのは、人間的なもの、悪霊に属する教えのことです。現実にごやうなことが教会に起きる、ということ言われています。

3:17 しかし、上からの知恵は、第一に純真であり、次に平和、寛容、温順であり、また、あわれみと良い実とに満ち、えこひいきがなく、見せかけのないものです。

悪霊的な教えが教会に入ってくる一方で、しかし、神からの知恵についても言われています。平和、寛容、温順などをもって、正しい教えが見えてきます。つまり、いくら啓示が開かれていても、人に対して敵対心を抱いたり、厳しいものになったり、憐れみの心が無くなっていくのは、神からのものではない、ということ言われています。寛容になり、謙虚になって語っていくことにポイントがあります。

3:18 義の実を結ばせる種は、平和をつくる人によって平和のうちに蒔かれます。

「**平和のうちに蒔かれます。**」とありますように、平和に語り、種を蒔いていきたいと思えます。

「教師」に関して、以上のことをエレミヤ牧師がメッセージされておりました。よろしければ、このようなこともご理解いただけましたら幸いに思えます。いつも大事なことを語ってくださる神さまに、感謝をお捧げします。



教師は、船のかじにたとえられている

お知らせコーナー

●エレミヤの新刊「天皇家は万世一系のダビデ王朝の末裔である！」



● 定価:¥1,500+消費税 ※注文を御希望の方は、以下へご連絡下さい。

● 警告の角笛出版 tel:042-364-2327 fax:020-4623-5255

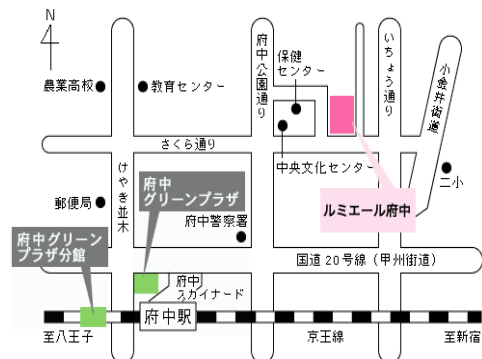
● mail:truth216@nifty.com

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日 午前 10:30-12:30
午後 14:00-16:00

場所:東京都京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館
(tel:042-360-3311)

1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、
「レムナントキリスト教会」の部屋をご確認ください。
どなたでも来会歓迎、入場無料です。



礼拝場所のURL: http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map_02.html

★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。
尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

☆クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風

<http://whattopics.at.webry.info/>

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家

<http://87494333.at.webry.info/>